

久留米市の取組み 重層的な支援体制の構築を考える会

重層事業（多機関協働）で開催している会議

国の枠組み		重層的支援会議 【本人同意あり ※本人参加もあり】	支援会議 【本人同意なし ※法に規定】
	目的	重層事業による支援の適切かつ円滑な実施のため (支援体制整備のため)	関係機関がそれぞれ把握している複雑化・複合化した課題が疑われるようなケースの情報共有や役割分担、予防的・早期の支援のための必要な支援体制の検討 (潜在的相談者のため)
	備考	- 福祉分野以外の参加を図り、会議を通じて新たなつながりや分野を超えた関わりを作る - ケース検討や地域課題共有を通じ、市全体のチームとしての対応力の向上を目指す（経験・ノウハウの共有、相談支援機関の対応力の向上）	社会福祉法に規定された会議であり、守秘義務のもと、本人同意がなくとも情報共有が可能

久留米市の運用		重層的な支援体制の構築を考える会	重層的支援会議	支援会議	支援会議 【臨時・縮小版】
	役割	<u>テーマに基づき、</u> 多様な主体が重なるプラットフォーム ● ネットワークを広げる ● 支援の在り方の検討・提案 ● 多様な主体の混ざり合い・学び合い	<u>個別ケース検討を通じて、</u> 多様な主体が重なるプラットフォーム ● 個別ケースの支援方法の検討 ● 支援の在り方の検討・提案 ● 多様な主体の混ざり合い・学び合い ● 支援の限界を超える実践の場		守秘義務のもとで 情報共有・ 支援方法の検討
	開催形態	不定期開催	定例開催（毎月第4水曜日）		随時開催
	参加者	アドバイザー 重層事業受託者 テーマの関係者	アドバイザー 重層事業受託者 ケースの関係者		重層事業受託者 ケースの関係者

体制整備



個別支援

重層的な支援体制の構築を考える会

■ 役割

テーマに基づき、
多様な主体が重なるプラットフォーム

- ・ネットワークを拡げる
- ・支援の在り方の検討・提案
- ・多様な主体の混ざり合い・学び合い



■ これまでに取り扱ったテーマ

- ・重層事業 ・ゴミ屋敷（住環境整備）支援 ・障害者の就労支援
- ・LGBT ・再犯防止 ・親なきあと（ひきこもりの家族会も参加）
- ・ひきこもりや不登校の若者の思いを共有できる場づくり
- ・計画の策定（高齢者福祉計画及び介護保険事業計画、障害者計画）
- ・被災者支援 ・多頭飼育問題

ゴミ屋敷（住環境整備）

■ 概要

重層事業の支援事例の振り返りを通じ、
ゴミ屋敷（住環境整備）に対する支援について、
支援関係機関、関係団体等と意見交換。

■ ポイント

- ・多機関協働事業者（社協）が調整役となり、民間事業者や地元住民の協力も得ながら伴走支援しているゴミ屋敷の事例を共有。
- ・事例では、高齢の親と自閉傾向の兄弟、債務や家屋の差押えなどの**経済的課題**を抱えていたほか、ゴミ問題で環境部へ周辺住民から苦情が寄せられるなど、**地域で孤立**。
- ・素人では片付けが難しい質・量のゴミの処分に対するノウハウがなく、**対処困難**で、支援が停滞。
- ・福祉に理解のある家財処分の**民間事業者の協力**により、支援が進展。
- ・本人が片づける姿勢を見せたことで、**地元住民**の理解、関わりが生まれつつある。



ゴミ屋敷（住環境整備） 会議での意見

■ 感想・良かった点

- ・ゴミを集めてしまう特性を強みと捉え、家財処分業のアルバイトへつないだことで、本人と民間事業者の関係性ができた。「ありがとう」と言われる体験が、本人の自己肯定感を高めることにつながった。
- ・支援者との関係の中で、支援につながりにくい本人にも変化が生まれている。「どう関係を作るか」から入ったことが良かった。

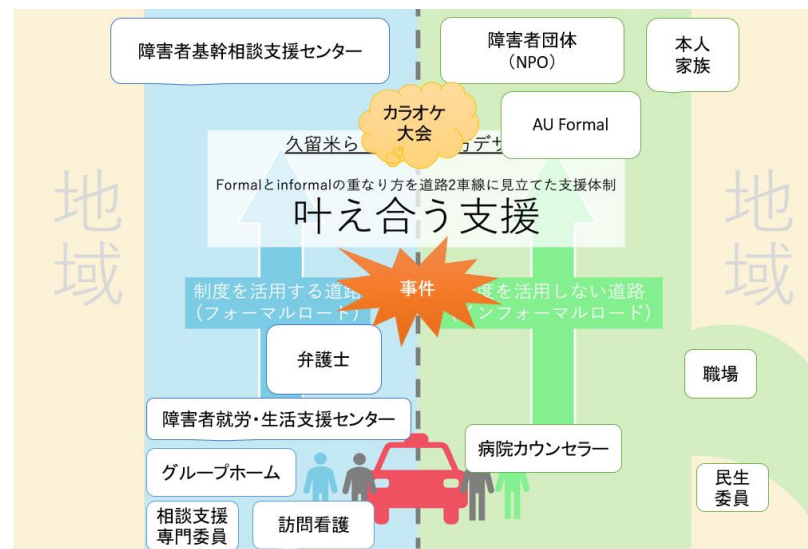
■ 課題・必要なこと

- ・**入口は「福祉」でも、出口は各分野の専門性を持った人との協働。**
民間事業者等の協力が不可欠。事例から仕組みを作っていけないか。
分野を超えたつながりを広げて、協働する仕組みがつかれないか。
- ・民間事業者の声「様々な手続き等、公的機関と連携できたことで、活動がスムーズだった」。
各々が得意なことをするという役割分担ができるといい。
- ・いくら「指導」しても、本人が何から始めればいいのか分からなければ、そこで止まってしまう、事態が深刻化する。**本人が具体的な行動を起こせるようになるまで伴走することが必要。**
- ・インフォーマルな支援者の声「制度の狭間にいる方、公的支援につながりにくい方を支援する際、制度の制約に困ることがある。たとえば、課題ゴミの処理施設持込みの回数制限や本人同行が必要という制約。**福祉的な支援が必要な対象者に対しては、行政側でも、もっと柔軟な制度運用をしてほしい**」。

再犯防止

■ 概要

犯罪を繰り返してしまう、障害をもつ人への伴走支援について、**更生保護分野**の国の機関（保護観察所、検察庁）や県、保護司会等の民間の支援者と福祉分野の関係機関、インフォーマルな活動団体等が参加し、事例共有・意見交換。



■ ポイント

- ・当事者の家族、インフォーマルな支援者、弁護士、相談支援機関、サービス事業所等が、再犯防止の視点で定期的な情報共有を図り、伴走支援している事例を共有。
- ・**元々の地域での支援体制**があったことが、逮捕時の家族や支援者の連携、その後の伴走支援体制につながった。
- ・普段なじみの薄い更生保護分野の仕組みや新しい制度の学び合いも。

再犯防止 会議での意見

■ 感想・良かった点

- ・様々な人間が関わることで、多面的なアイデアが出たり、アクションを起こせるのが、二車線（※）の強み。当事者を含めた支援者間の関係性が重要になる。事例では一歩踏み込んだ関係性が構築出来ていたのではないかな。
- ※ 公的制度を活用した支援とインフォーマルな関わりが、方向性を共有し連携しながら、本人を中心として進んでいく体制を表現

■ 課題・必要なこと

- ・満期出所者は、保護観察処分もなく、つながりが皆無の状態です社会に戻る。
- ・逮捕前からの支援者が全くいない場合にも、取りこぼされずに地域とつながれるための支援体制を考えるべき。
- ・帰住先のない人に対しては、更生保護施設や自立準備ホームなど、一時的な住居確保の制度しかない。精神疾患を持つケースなどは近隣住民とのトラブルが絶えず、住宅確保が困難。そのような事案に対する伴走支援が必要。出口支援について支援を拡充する必要があるのではないかな。

多頭飼育問題

■ 概要

重層事業の支援事例の振り返りを通じ、**動物愛護団体**、動物管理センター、福祉部局が参加し、愛護団体（ボランティア）の活動状況、動物支援の視点、各支援機関の対応事例、多頭飼育問題についての課題認識などを共有。



■ ポイント

- ・家賃滞納により市営住宅を強制退去となりかけた猫の多頭飼育の事例を共有。
- ・住民から動物管理センターや市営住宅課に度々相談があり、市住での猫の飼育禁止を指導。生活困窮で生活自立支援センターにつながるも、本人が猫を手放すことに拒否的で支援拒否。
- ・支援者が本人の希望に寄り添い、保護猫の譲渡会に同行したことで、動物愛護団体とつながる。**猫の処遇（避妊去勢手術、保護）に団体の協力**を得られたことで、支援が次のステップへ。
- ・ライフレスキュー久留米連絡会（社会福祉法人）の協力で住宅の片付けを行い、転居できた。

多頭飼育問題 会議での意見

■ 感想・良かった点

- ・早く介入(手術)できれば多頭飼育を防げる。避妊去勢は二オイ抑制、将来的なトラブル回避にも。
- ・福祉部局の支援者は、どうしても人を優先に考えるので、動物虐待という視点が薄かったと気付いた。
「誰かがしないといけない」を踏み出してやるためには、知識を持っていることが大事。

■ 課題・必要なこと

- ・動物管理センターは、終生飼養や引取り手を探すなどの「自助努力」を指導する立場。
最終的に引き取ることはできても、**手放したい希望がない人に誰が寄り添えるのか。**
- ・多頭飼育問題では、**飼い主に「自助努力」を求めることが難しい**ケースが多い。
支援者が代わりに担わざるを得ないこともある。どこまで引き受けるか線引きが難しい。
- ・生活困窮、近隣トラブルになっても、**飼い主は自分よりも動物の問題にこだわる。**動物の問題と切り離しては人への支援ができない。
- ・**ボランティア団体と連携したいが、つながり方が分からない。**つながった後、対応が団体に丸投げになる懸念もある。
- ・動物愛護団体の声「動物の命を救うためにも早く情報がほしい。行政とつながりたい」。
- ・動物愛護団体はどこも**お金や人手に余裕はなく、熱意でなんとか活動**している。

「重層的な支援体制の構築を考える会」から見えたもの

● 多様な主体と連携しなければ対応困難な課題がある

支援の出口に各分野の専門性や強みが必要。

公的な受け皿のない「狭間」の課題を受け止めているインフォーマルな支援者からも、「行政との連携（情報共有や制度運用面での協力）」を求める声がある。

▶ **行政の福祉部局だけでなく、福祉以外の部局、インフォーマルな支援者が一緒に課題解決を考えられる体制や関係性が必要。**

● 制度の枠を超えた「一歩踏み込んだ支援」が必要

「自己責任・自助努力」だけでは、課題を抱えた人が孤立を深め、課題が深刻化。課題を抱えながら制度につながりきれない人に対し、一歩踏み込むことが必要。

▶ **「誰かがやらねば」を引き受けている“誰か”を孤立させないことが必要。**

これからの重層的な支援体制の整備に向けて

- ▶ 「重層的な支援体制の構築を考える会」や「重層的支援会議」を、多様な主体が重なるプラットフォームとして機能させていく。
- ▶ 参加者のネットワークを拡げ、多様な主体の混ざり合い・学び合いの場としての役割を果たすだけでなく、支援の限界を超える実践の場となることや、分野を超えた連携、必要な施策化につながることを目指す。